

国際的観点から見た原子力政策の課題

中西寛（京都大学）

I. 失われた「戦後」の安定した原子力秩序

日本の核四政策	国際構造	現在の変化
非核三原則	NPT	米印協定、北朝鮮核保有
核軍縮	米ソ戦略的安定	新 START が最後
米核抑止への依存	日米同盟	核抑止への依存度低下
原子力平和利用	日米原子力協定	福島事故、核燃料サイクル・バックエンド問題

国際的な核・原子力ガバナンス秩序をアメリカの優越と冷戦構造が支えていた
現在、その構造は失われつつあり、新たな状況に日米含め各国とも対応できていない

II. 最近の情勢

1. アメリカのジレンマ

Armitage/Nye report

日本の慎重な原発再稼働が CO2 削減と経済復興に不可欠

安全な原子炉設計と安全規制での国際貢献

日米間での R&D 協力

アメリカの処分地確保

米政府 プルトニウム余剰問題 脱原発、再処理工場稼働のいずれに対しても。

→東電によるドイツとの MOX 燃料処理、stopgap?

2. 核軍縮／核抑止問題

オバマ「核なき世界」方針 戦術核の縮小 前方展開の事実上の廃止 (B52 などで代替)

北朝鮮核保有、ミサイル能力

通常兵力による対抗、ミサイル防衛配備強化 (アラスカ GBI 増強)

米ロ、米中の戦略バランスにも影響

3. 米韓原子力協定問題

米韓原子力協定の 2014 年から 2 年延長で当面決着

韓国 核燃料サイクルを強く希望 (高速増殖、廃棄物処理) 北朝鮮対抗論?

2016 年に向けた交渉 核燃料サイクルの国際化? →2018 年期限切れの日米交渉に波及

Ⅲ. 当面の課題

1. 日米同盟を基軸とした協力

1) 核兵器の魅力を減らす ミサイル防衛、通常兵力の能力向上

2) エネルギー同盟

安全規制

バックエンド問題の共同対処

化石燃料（シェール・ガス）、再生・省エネ技術で協力

日米をコアにして他国も参加（たとえば、韓国、オーストラリア、ニュー・ジーランド）

2. 核燃料サイクルの国際的研究

NPT 体制下での技術的可能性の検討

3. 国際人材の育成